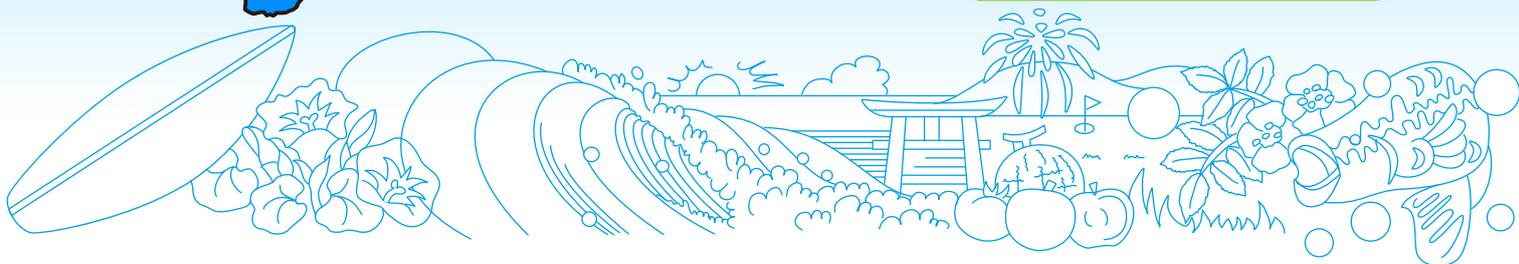


ICHINOMIYA

Clip

千葉県一宮町の
ライフスタイル紹介サイト

ブック版 Vol.04



<http://ichinomiya-iju.jp/>

千葉県長生郡一宮町役場 まちづくり推進課(直通)
一宮町移住定住相談窓口

☎ 0475-42-2113

〒299-4396 千葉県長生郡一宮町一宮2457

この町のこの人



一宮町に暮らす方々にインタビュー！
町の魅力や暮らしのこだわり、困ったことや気が付いたこと
など、さまざまな角度から質問してきました！

Vol.01 ほんとにいいことばかり！
のびのびチャロと一緒に景色を楽しみお散歩しています！

Vol.02 一宮の自然を見つめて30年余り、毎日新しい発見の連続
研究からアートへ夢フィールドは広がります

Vol.03 田んぼの中のコーヒー豆屋さん
アロハのところで商売も繁盛！

Vol.04 サラリーマンから農家に
無農薬栽培の田んぼと畑で土と遊んでいます

Vol.05 仲間といっしょに子育てサークル
今しかない“ママライフ”を楽しんでいます

Vol.06 “サーフィンが好き”理由はそれだけ
好きなサーフポイントの近くに暮らし家族のびのびです！

Vol.07 アトリエ付きの家で創作に没頭 目的をもって暮らすから
田舎暮らしは充実するのです

Vol.08 海風を感じながらゆっくり、のんびりリラックス
気分はハワイアン！

Vol.09 夢かなって海に見えるカフェバー経営
最高のローカルスタイルを楽しんでいます

Vol.10 定年までの8年間 東京への電車通勤
座って寝て行けて最高でした！ここはいい！

Vol.11 豊かな自然が子どもの心を育みます
悠々自適のちょうどいい田舎暮らし

Vol.12 知識と経験で地元農業を引っ張る若手農家は
レゲエDJマンでもある

Vol.13 グラチャン プロサーファーは
生まれも育ちも 生粋の一宮っ子

Vol.14 サーフィンと音楽と友達と
それだけで充分 シンプルライフ

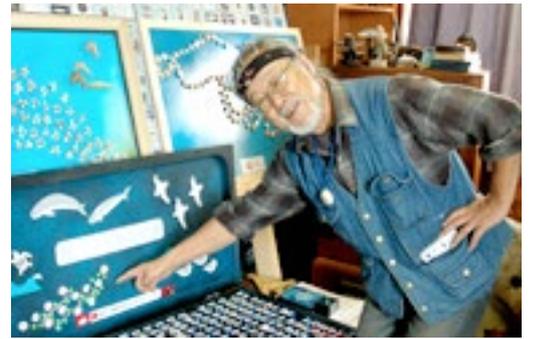
Vol.15 里山の自然と人びとの温もりに
心癒されています

Vol.16 アートにも子どもたちにもいいことばかり！
九十九里からは はなれられません。

Vol.17 サーフィン好きにとってのパラダイスは東京へ通勤圏内！
大好きな仲間にもまれた楽しい毎日です。

Vol.18 知らなかった土地で始めた有機栽培。
最高の環境と人の温かさがととても幸せな毎日をくれました。

一宮の自然を
見つけて30年余
毎日、新しい発見の連続
研究からアートへ
夢フィールドは広がります



Published : 2011.10.31

お名前：秋山 章男さん 76歳 元東邦大学 理学部教授
ご家族：奥さま 70代 主婦
愛犬
一宮町人：1979年～
先住地：千葉県船橋市

一宮町に移住することになった経緯は？

最初は南極の生き物の研究をしていましたがそう度々には行けませんので、東京湾にある“干潟”の研究をはじめました。開発で徐々に埋め立てられ、それが社会的な問題にもなっていてマスコミの取材などもすごく増えていましてね。これでは落ち着いて研究もできないと、新たなフィールドを探していたところ、環境庁(現・省)からの依頼もあって全国の干潟を調べたのです。

関東地区では7～8箇所調べて、その中で一宮川の干潟が一番良かったのです。

生き物がすごく豊富で、面積が小櫃川(おびつがわ)の盤州干潟や三番瀬ほど広くないので、組み立てた研究ができるのではないかと。

調査には1972～73年頃に来るようになりました。でも、学生を連れて宿やテントもお金がかかるので、それなら僕が住んでしまおう！と。

1979年、今から32年も前のことです。

一宮川の河口干潟はとても貴重な場所なのですね？

別名「渡り鳥の国際空港」とも呼ばれているくらいですから。

象徴的なのは北極から南極まで地球規模で渡りをする“ミュビシギ”の最大の飛来地がここだということです。

ミュビシギがゆっくり休めるような空間的な広がりがある河口の干潟というのは九十九

里の中でもここしかない。川はいくつかあるのですが、一宮川のように蛇行して海に注いでいる川はない。

だからあれが生命線なのです。

日本の太平洋岸を見てもそういう形が残っているのは宮城県の蒲生干潟くらいなので、日本屈指の貴重な干潟と言えるでしょう。

ミュビシギだけでなく多くの渡り鳥の中継地点になっていますから、鳥の写真を撮りにくる人も多いですね。

でも、地元の人達はそのことをあまり知らないようです。



干潟以外にもフィールドや対象が広がっているようですが？

干潟をやっているとすぐ側に砂浜があります。渡り鳥は多いし、アカウミガメが上陸産卵する北限ですし。イルカもいる。

それで対象が砂浜や海の方にも広がって…。毎日海岸を歩いてましたね。距離としては5～6キロなのですが、毎日新しい発見があるから飽きない。

そういう体験をすともうやめられないですよ。



この30余年間、一宮の自然は変わりましたか？

その質問が一番難しい。

一口に自然といってもいろいろあるし、どの生き物を見るかによっても変わってきますから。ある面では変わってないという答えと、ある種では減ったとか、ある生き物は増えているということもあるので。

例えばミュビシギですが、私の調べているかぎりでは減っていません。

環境は確かに悪化してますけれど、ミュビシギという鳥は順応能力がすごく高い。ある一つの食べ物だけに固執しない。主食として考えられるヒメスナホリムシという生き物が少なくなっても、魚をつついて食べることもできるし、ゴカイを食べることもできる。多様な生存戦略を持っているのですね。だから彼らはそう簡単には減らない。

ところがミュビシギによく似た“ハマシギ”という鳥はミュビシギよりすこし嘴(くちばし)も長くて、主にゴカイを食べています。

嘴が長いということはより深いところのエサも採れる。可動領域が広がるはずですけどハマシギは激減してます。

ミユビは砂浜を主なエサ場として干潟を補足的に使う。

ところがハマシギは干潟を主なエサ場にしろ、かつ後背湿地をエサ場に使うのですがこの後背湿地が全部埋め立てで無くなってしまいました。そのためハマシギの数はもう10分の1位に減ってます。

もう少し大きくとらえると、この一宮の海と川にすむ生き物のうち、国や県で絶滅が危惧される生き物として指定されているものが約200種います。

海だけにしぼると100種類ほどいるのです。この数字をどう評価するか。

一つは、環境の悪化で絶滅が心配される種がそんなにも増えてしまったのかというところと、もう一つは、そんなに貴重な生き物がまだこんなに多くいてこの地域は自然が残っていてすばらしい、という見方の両方があるでしょう。

僕自身はプラス思考で、もちろん守らなければいけない環境面でのいろいろはあるにしても、まだ大丈夫という考え方の方をとりたいですね。

観察は今も続けているのですか？

ウミガメの観察はPTAのお母さん達がかんばって後を引き継いでくれてますし、ミユビシギを含めて鳥の観察をする人も出てきました。

その分、僕はあまり出ないですむようになって、朝起きると家のベランダに備え付けの双眼鏡で、一宮川の中州の鳥を観察して、種類と数と行動を記録してます。

最近では僕の妻も犬の散歩を兼ねて鳥の観察をするようになりました。

僕がやっていた影響も少なからずあるだろうけど、思っていた以上にはまって毎日いろいろな写真を撮ってきますよ。

「今日はタゲリが来たよ」とか「こんなワンちゃんに会ったよ」とか。せっかくなにいいところに住んでいるのだから家でテレビ見てるなんてもったいないじゃないですか。

外を歩いた方がいろいろな人に会えるし

、いろいろな生き物にめぐり会えるのですから。

自然の観察は5年10年位じゃだめですね。ずっと長いこと続けたい。

ただ、1日1日はほんのわずかな時間を割くだけでいいのです。それが10年とか20年続くととても貴重なデータ資料になります。

ありきたりですが「継続は力なり」です。

やはり10年～20年続けると仕組みが分かってくる。継続して見るとそれぞれの年で違うんですよ。

だからある年だけに注目すると本当の姿が見えない。

継続したデータから枝葉を取って見るとやっとその本来の姿が見えてくる。短期間の集中的な研究では分からないことがいっぱい分かってきますからね。

最近は講演活動やアーティストとしての作品作り、近所の子供達のお相手などに忙しいようですが？

僕の講演の特徴は、講演者がしゃべらないで「参加者に探してもらったり、作ってもらったり、しゃべってもらう」というワークショップのような形です。聞いているだけでなく、自分でやってみると興味や疑問がわいてくるでしょう。

貝殻を採りに行くところから始まったり、パネルや問題集を人数分用意したり、準備が大変なうえ時間もお金もかかりますけどね。

そのパネルや資料を作っていてアートの方にのめり込んで行ったのです。

一人でちょこちょこ作っていたら、いつの間にか近所の子供達遊びに来るようになりました。

いろいろなものを吸収して、好奇心が強くて、なんにでも素直に興味を持って、そういう子供達に沢山夢を与えたいですね。子供は「未来」ですからいくら大事にしてもしすぎることはありません。と、かっこよく言いましたが、本当は僕が子供達に遊んでもらっているだけなのですね。



この町の魅力は？

自然の要素が全部そろっているところ。海と川、その間の干潟、山、そして首都圏から近いこと。これは極めて理想的な条件だと思いますよ。

趣味にしてもなんにしても色々なことができるというのはいいことじゃないですか。選択の幅が広い。山で陶芸したいとか、海の絵を描きたいとか、海の生き物や森の生き物に興味があるとか、川遊びとかカヌーをやりたいとか、メニューがすごく多いと思いますよ。

それと歴史・文化というのでしょうか。近代の芥川龍之介や久米正雄、与謝野鉄幹・晶子、一宮の文学歴史めぐりみたいなそういう魅力もあるかもしれないですね。それに芥川龍之介の『海ほどり』に出てくる海浜植物のハマギクやコウボウムギ、その他にはケカモノハシなどを大切に再生していく。それがひいてはアカウミガメの産卵場所の保護にもつながっていったらすると最高なのではないかと。

移住をお考えの方にひとこと

自然が豊かでそこで暮らしたり遊ぶのは楽しいですが、その反面、自然もご機嫌が悪い時もあります。

そんなに人間の都合のいいようには自然というのは出来てない。

自然にはリスクや危険があることもある程度覚悟して分かった上で来てほしいですね。でないと来てみて「そんなはずじゃなかった」ということになっちゃいますからね。



サーフィン好きに選んでの
パラダイスは
東京へ通勤圏内！
大好きな仲間に囲まれた
楽しい毎日です。



Published : 2014.12.05

お名前：土生康弘さん 36才 会社員
土生貴子さん 33才 会社員
一宮町人：2011年～
先住地：東京都文京区

一宮に移住したきっかけは？

康弘さん：何をおいてもサーフィンですね。15歳から始めて今年で21年目になります。会社が都内ということもあって初めは港区などで探していた頃に、ふと「もしかしたらサーフポイントの近くでも住めるんじゃないか」と思って探し始めたのがきっかけです。候補地としては湘南も考えていたのですが、年間を通してサーフィンに適した波がコンスタントにあることで一宮に決めました。以前から一宮には週末サーフィンに来ていて、都内までの通勤圏内なのは、湘南か一宮くらいだろうというのは知っていたんです。

貴子さん：私は1年前に結婚したことを機に一宮へ来ました。その頃から主人に連れられてサーフィンも始めたんですけど、それまでは東京で暮らしていたんです。



康弘さん：僕は情報通信系の会社で企画の仕事をしています。ここから職場までの通勤時間は概ね朝は2時間、帰りは1時間半ほどかかっていますね。特急わかしおに乗れば東京駅から1時間で一宮に着くんです。夏は、早朝サーフィンをしてから会社へ行くときもあります。朝の通勤快速は上総一宮駅が始発で、100%座れるので楽ですよ。

貴子さん：私も都内の不動産会社でマンション管理の仕事をしています。毎朝主人と一緒に朝4時に起きて、ストレッチしてから食事の用意をして、会社へ行きます。



通勤電車の中では どう過ごしていますか？

康弘さん：通勤快速だと2時間かかるんですが、その時間をうまく使っているかなことをしてますよ。新聞も読めるし、仕事の予定を立てたり調べ物をしたりという時間にも充てられる。忙しい時期には電車の中

でパソコンを開いて、仕事しながら通勤してたりもしました。今は携帯デバイスも充実しているし、通信環境もいいので、電車の中でも困ることはないですね。

貴子さん：私はほとんど寝ているかな。朝起きるのが早いと、夜も1時くらいまで起きていたりするので、週末になってくるとだんだん睡眠時間が足りなくなってくるんです。

康弘さん：僕はもうここへ来て4年経っているので慣れましたけれど、彼女は今年結婚してからなので最初はちょっと大変だったと思います。



都会暮らしに 戻りたいと思うことは？

お二人：100%ないですね。

康弘さん：さっき「週末になると睡眠時間が」と言いましたが、休みの日に寝ていることは二人ともほとんど無いんですよ。

お仕事は何を？

ご近所さんともすごくいい関係を築けているので誰かしらお客さんが来てくれますし、一緒にサーフィンする仲間もこの家に集まってくれます。サーフィンをする、しないに関係なくホームパーティーしたり、どこかへ食べに行ったり、この家はみんなが集まる楽しい場所になっているんです。ご近所さんにもサーファーの方が多くて、いつも「どこの波に乗るか、明日はどんなことしようか」なんて話していると時間が経つのを忘れてしまうくらいです。

貴子さん:二人とも料理が大好きで、集まってくれた方に食べてもらうのも楽しいんです。

移住してきて感じたことは？

康弘さん:僕たちが住んでいるこの辺りの方は他の土地から移住してきた方が多くて、みんな好きなことに一生懸命に暮らしているという印象ですね。僕と趣味も同じだし、年頃も近いのすごく仲良くさせてもらっています。新しく移住してくる方にも垣根無く接してくれます。僕も最初、誰も知らない状態でポンと入ってきた人間ですけど、すぐに打ち解けて、気がつけば周りには気の合う友達ばかりです。

貴子さん:ホントにいい方たちばかりです。あと、野菜や果物は値段も質も都会とは全く違いますね。安いし美味しいものがいっぱいあります。

康弘さん:もともと僕はアレルギー体質だったんですけど、ここでは緑も海も近いし空気もうまい。食べ物も直売所が点在していて、顔の見える生産者のおいしい野菜や果物が食べられる。ここでの暮らしを通してアレルギーのこともあまり気にならなくなりました。

仲間が集まったら何を？

康弘さん:夏なんかは毎週のようにバーベキュー三昧です(笑)。一度この家に来てくれた方は何度も来たいといってくれますし、近所の方も一緒にバーベキューを楽しんでいるので、本当に家族ぐるみで仲良くさせてもらっています。

ここに暮らしていると「楽しいこと以外なものもない」と言っても過言じゃないような気になります。

お家も素敵ですね。

康弘さん:みんなが気軽に来られるような家にしたかったんです。僕は白が好きなのでそれを基調にして。

庭のグリルは夏のバーベキューで大活躍しています。近所の子供たちともそれで仲良くなりましたし、都会で暮らしていてこんな経験はあ

まりできませんでしたね。あと、一宮の中でもこの場所の雰囲気は格別なんじゃないかなって自分では思っています。ちょっとした高台にありますけど、近くの公園から見渡す一宮の町は何とも言えないほど綺麗で、よく二人で眺めにいったりもするんです。

これから移住を考えている方へ

康弘さん:僕はこれまでいろんな土地へサーフトリップしましたが、千葉外房の海はおそらくサーフィンに適したポイントが日本で一番多く点在していると思います。年間を通して波がコンスタントにあるのは、他県ではないので、そこが一宮の魅力なんですけど、そんな海岸から10分圏内に自宅を構えられ、首都圏へ通勤できる場所といったら、やっぱり一宮が一番だと思います。しかも、都心に比べて土地の値段も何十分の一です。サーフィン好きにはもうパラダイスですよ。



vol. 05 子育て世代

仲間をいっしょに
子育てサークル
今しかない
“ママライフ”
を楽しんでいます

vol. 06 サーフィンライフ

“サーフィンが好き”
理由はそれだけ
好きなサーフポイントの
近くに暮らし
家族のびびびです！

vol. 07 三浦暮らしを楽しむ

ツトリエ付きの家で
創作の浴槽
の物々として暮らせる
田舎暮らしは
大変です！

vol. 08 海のちかくで

海邊を思わせる
のびのび、ぬいぐるみ
リラクゼーション
家具は、ワイマン！

vol. 09 海のちかくで

夢を叶えて
海の見える
カフェー経営
最高の
ローカルスタイルを
楽しんでいます

vol. 10 三浦暮らしを楽しむ

近年までの5年間
東京への電車通勤
をやっていただけ
最高でした！
ここはいい！

vol. 11 子育て世代

豊かな自然が
子どもを
喜ばせます
時々自然の
ちよどいけ田舎暮らし

vol. 12 農家

知識と経験で
地元農業を引継ぐ
若手農家は
レザエロマン
でもある

vol. 13 サーフィンライフ

グラチャン
プロサーファー
は
生まれも育ちも
三浦の
一宮っ子

vol. 14 サーフィンライフ

サーフィンを
仕事に伸ばす
それだけで自分
シニアライフ

vol. 15 自然から学ぶ

里山の自然と
人との温もりは
心癒されています

vol. 16 海のちかくで

アートにも
子どもたちにも
いいことをばかす！
4年を費やすは
はなれたらいい



知らなかった土地で
始めた有機栽培の
最高の環境と人の温かさが
とっても幸せな
毎日をくれました。

Published : 2015.10.01

お名前：竹川英識さん 40才 有機栽培農家
竹川麻衣子さん 36才 有機栽培農家
草太郎くん 2才
一宮町人：2014年～
先住地：栃木県芳賀郡茂木町



農業を始めたきっかけは？

もとは2人ともフリーターだったんです。主人はDJをしながら、私は絵を描きながら東京でアルバイトで暮らす20代でした。本人はそれぞれ一生懸命に生きているつもりでしたが、今思えばどちらかというトフラフラした若者だったのかもしれない。そんな2人が東京で知り合って、6～7年付き合っている間に農業を始めようと思いついたんです。有機栽培の農家が販売していた野菜の宅配を利用して、その農家さんのお宅へ宿泊しながらの農業体験なんかもさせていただいたりして、自分の食べ物は自分で作りたと思うようになったことが一番のきっかけでした。田舎に住んでいると自分のすぐそばで野菜が育っていたりお米が実っていたりするのを目にできますが、都会に住んでいるとそれが難しく、季節感も無くなってくるし、お店に陳列されている商品を見ているだけだと“食べ物は生き物なんだ”っていう感覚も薄れてきますよね。大人にとっても子どもにとっても、それは良いことではないんじゃないかなと感じていました。私自身、有機栽培の野菜を食べたことで気付かされたことが多かったので、畑が家庭の台所とつながっているということをもっと生で感じてもらえるような活動を自分達でもやってみたくと思ったんです。

そんなわけで、結婚してから貯金をして、2人一緒に農業を始められる状況が整ってから新天地を求めて栃木へ引っ越ししました。

どんな農業をされているんですか？

有機栽培の野菜と、平飼い養鶏の卵が中心です。野菜は旬の野菜を何でも作っている感じで、種類でいえば60～70品目にもなります。年間を通して宅配セットで出荷しているんですけど、1回の宅配で10品目くらい入れていて毎回少しずつ種類を変えているので、そのくらい必要になるんですよ。一宮に来る前、2010年から栃木県の茂木町で農業を始めて、その頃作っていたキノコも来年あたりからもう一度ここで栽培しようかと考えているところです。栃木では今より少し規模が小さい1haくらいの農地でしたが、今と同じ有機無農薬で多品目栽培のスタイルを続けていました。それを一宮に来てからは2haほどに拡大したんです。夫婦でやっている有機農家としてはまずまず大きな部類に入るんだろうと思いますが、研修生も2人働いてくれるのでちょうどいい広さですね。多品目でやっていることもあって、これ以上大きくなると4人では手が回らなくなりそうです。



栃木から移住を考えたきっかけは？

2013年の9月に、栃木ですごく大きな台風に見舞われて。翌日の朝に近所の方から電話がかかってきて「お宅のハウスが潰れてるよ」と聞いたんです。急いで見に行ってみるとハウスどころか家の前の土手が全部崩れていて、その下にあったハウスも崩れ落ちていたんです。山間部を大きく階段状に切り開いた土地だったので、それがまるまる崩れてしまったという状態でした。

家の裏側も山が崩れかけていて、全部流されてしまう前にとまだ生まれて半年だった草太郎を連れて車で親戚の家まで非難したんです。またその土地は景色も人もとてもいいところだったのですが、冬になると-10℃まで気温が下がったり、山間の傾斜地なので日当たりが良くなかったりと実は年間を通して農業をやるには不向きだったんです。だからいつかはもう少し南の地域でやり直したいなと感じていたというのもあって、その台風を機に違う土地を探し始めました。

移住先に一宮を選んだポイントは？

一番は暖かさや平らな土地で、農業をやるための条件がそろっていると思ったことです。それから千葉の中にも都会があるので、これからお客様を増やしていくのにいいだろうなど。

一宮自体も移住者の方が多いので私たちの作る野菜に関心をもっていただけでも多いんじゃないかとも感じました。実際、こちらに来てからはとても栽培しやすくなったし、お客様の数もだいぶ伸びたんです。それにこの家は、実は主人のお母さんの実家だったんです。私たちが暖かい土地を探し始めた際に、それまでこの家に住んでいらした親戚の方が偶然にも引越をする事になりました。私たちは引っ越して新しく農業を始められるなら次はアパート暮らしでもしょうがないと思っていたんですが、ここは昔農家だった家で、納屋もあるし最高の条件でした。栃木で土砂崩れが起きたのが2013年の9月で、その年末には引っ越してきたのほとんどにバタバタという感じです。一宮への移住は、最初は栃木での台風という良くないことから始まりましたが、移住してみたら結局はいいことばかりだったので、不思議な縁を感じています。



住む場所としての一宮の環境は？

農業体験などでやってくる方はやっぱり都会に住んでいる方が多いですね。そういう方でも働く場所として入りやすいような、ちょうどいい田舎加減が一宮にはあります。農業や田舎暮らしにあこがれている方は、本当にすごい田舎だと少し躊躇する部分があるんですけど、そんなに身構えずに飛び込めて、田舎暮らしのいいところだけ満喫できるような雰囲気ですかね。海もあるし山もあるし、ゆったり過ごすにはとてもおすすめです。田舎過ぎて不便が勝ってしまうこともないですから、自由な気持ちも感じながら喧嘩を離れて暮らせる場所だと思います。栃木では1日泥だらけになって働いて、家に帰ったら寝るだけという感じで、それはそれで山の暮らしを満喫していたんですが、一宮に来てからはもっと自

由な田舎暮らしを楽しんでいます。逆に不便に感じることはほとんどないんです。私たちがもっと厳しい環境から越してきたからかも知れませんが、スーパーも役場も駅も近いところにあるし、隣のいすみ市に行けば子どもの病院もあるし、とても便利だなと感じています。

一宮の子育て環境はいかがですか？

引越をしたとき草太郎は8か月くらいでしたが、移住してみても改めてこの土地の暮らしやすさと子育てのしやすさを感じています。保育園も11か月の頃にはスムーズに入れてもらうことができホッとしました。他の町ではなかなか保育園に入れないお子さんがいると聞きますが、一宮町の方針で、保育園が必要な家庭にはできるだけ受け入れられるように取り計らっていただけなんです。子どもは自分で面倒見たいと思っていたので、本当は保育園に入れるのはためらっていた部分もあったんですが、仕事を続けていくにはしょうがないかと思って入れてみたら、先生はとっても優しいし、今は子育てについて何にも心配がないといってもいいくらいです。自然がいっぱいだし環境もすごくいいですね。栃木も子どもが生まれるとご近所の方がみんな集まって、1年に3回もお祝いをしてくれるような、人の気持ちがとても温かい町だったので私は大好きでした。比べてみるとこちらは風通しがいい感じがしますね。町の方は元気で、言葉も歯切れがいいというか。

あと海が好きで移住してきた方にはなんだか華やかな印象がありますね。全体的にラテンっぽいというか。その土地土地に良さがあるものなんだなって感じました。



有機栽培をするにあたって土壌の質はいかがですか？

初めはとてもビックリしました。自分が今まで知っていた土とは全然違ってたんです。気候が暖かい千葉に来たことで、栽培にとっては良くなることばかりだなと思っていたんですが、一年目は大失敗してしまいました。海が近いからか、ほとんど砂のようなサラサラの土壌で、水はけが良すぎたんですね。それで肥料もその場に留まらずにどんどん抜けてしまって。土地が肥えていなかったので作物が全く大きくなってくれませんでした。乾燥によって土の温度も上がってしまって、夏の作物がみんなに萎れるのを見たのは初めてでした。

それで栃木でやってきた方法をここでそのまま適用しようとしたのが間違いだったと気づきました。いったん計画を全部やりなおして、この土地に合った方法を検討してみたいです。具体的には、温暖な千葉は栃木よりも早く暖かい時期を迎えるので、苗を植える時期を前倒したりですね。すると今年はバッチリうまくいきました。他には夏など無理な時期に種を播かないとか、どうしても播く必要があるときは遮光ネットをかけるとか、やっぱりその土地土地に合った農業のやり方をすればうまく行くんだと思い知らされましたね。

他に有機栽培のお仲間はいらっしゃるんですか？

つい最近、同じ一宮で有機栽培をしている農家さんと集まって、情報交換をしているところなんです。それと今、一宮の自宅から通いで研修生として入っていただいている女性も卒業したらこの町で有機農家として独立して就農することになっていて、彼女ともこの地域で有機栽培のコミュニティを作っていこうと話しています。同じ地域で同じような農法をしている仲間が増えれば、この土地に合っている品種を見つけたり、新しい作物でも種の播き頃を探したりと、きっといろんな意味でお互いに切磋琢磨しながら向上できるんじゃないかなと考えているんです。

この土地ならではの自然に対する向き合い方があって、一人ひとりがその状況に直面するたびに考えていくよりも、それぞれの経験値を共有することでみんながどんどん成長するというか。それが、人が集まって暮らすコミュニティの一番おもしろいところの意味なのかも知れませんね。

それに今、ここで農業をしている方はやっぱりお年寄りが多いですから、農業用地もこの先の担い手を必要としています。新しく農業を始めようという方が、私たちのところから広がっていつてくれるのも楽しいことだなと思っています。

これから先 どんな農業をしたいですか？

この先というと、販売のことですね。レストランなどで使っていただく分は必要な種類や量をご注文いただいています。今の宅配の形は、嫌いなものなどを事前に伺っている以外はほぼお任せで出荷させていただいています。

基本はその時期の一番美味しい野菜をお届けするというスタンスです。それ自体が都会の方にとっては季節の便りにもなりますから、喜んでいただいています。ただ、やっぱり一番鮮度がいい状態でお届けできるのは近隣なんですね。だから

都心への出荷も拡大しつつ、近くにお住まいの方へのアピールにも力を入れていきたいなと考えています。あとはイベントを定期的に行おうと計画中です。今年一番好評だったのは、鶏を絞めるイベントでした。参加者には当日朝から鶏を捕まえることから体験してもらって、庭で首を切って血を抜いて、羽をむしって解体するところまで全部みんなでやってもらったんです。あとはレストランの方に調理していただいたものを一緒に食べたんですが、これは皆さん本当にいい体験になったと言ってくれました。命を食べることの実際を知ること、食べ物の大切さを分かっていたらいいかなと思います。

この秋には大人向けの芋掘りを企画中で、みんなで掘ったさつまいもを芋焼酎にして楽しもうというものです。これもきっと喜んでいただけるものになると思いますよ。

一宮へ移住を考えている方へ メッセージをお願いします。

これはうちに来てくれる方にいつも言っていることなんです、「ちょっと欲張りな人にはぴったりな町」だと思います。

海もあるし、山も近いし、ちょっとオシャレなお店も美味しい食べ物屋さんもあるし、本当になんでもある町ですから。それに東京も近いので都会が恋しくなればいつで

も行けますもんね。すぐ近くには白子の温泉もあるし。移住を考えている方にはとってもおすすめです。都会では考えられないくらい自然な贅沢ができる、農業だけじゃなくて、何をしたい人でも自分の好きなように暮らすことができる町だと思います。

住んでいる人も心がゆったりしているのか、車で走っていると道をゆずってもらえる経験がとても多いです。こんなおらかな気持ちの町は他に知りませんでしたから、いつも嬉しいなと感じています。

新しく移住してくる方も、きっとこの町が大好きになると思いますよ。

お問い合わせ

一宮町役場 まちづくり推進課 ☎ 0475-42-2113 受付：9:00 - 17:00 (休日：土日祝)

当サイトの運営／管理、移住定住相談窓口です。
移住に関するご相談はお気軽にお問い合わせください。

イベントカレンダー

伝統行事、サーフィン大会、フリーマーケットなど
地域密着型の情報満載！
一宮町はいつも元気いっぱいです！

2014年イベント実績

- 02月22日 加納久宜公の墓献花式
一宮いっちゃんバースデーパーティー
- 04月29日 第13回上総国さすぎ市
- 07月13日 渚のファーマーズマーケット
- 07月19日 南九十九里はまぐり祭り
- 07月27日 観光地曳き網
- 08月02日 一宮町納涼花火大会
- 08月03日 渚のファーマーズマーケット
観光地曳き網
- 08月09日 SUPウォーターマリンスポーツ一宮カップ2014
- 08月13日 観光地曳き網
- 08月16日 一宮川燈籠流し
- 08月23日 ビーチバレーボールフェスタ2014
- 08月24日 ビーチバレーボールフェスタ2014
- 09月06日 上総国一宮まつり
- 09月10日 上総十二社祭り(稚児行列・鶴羽神社御迎祭)
- 09月12日 上総十二社祭り(例祭宵宮祭)
- 09月13日 上総十二社祭り(例祭・南宮神社大祭)
- 09月20日 九十九里トライアスロン
- 10月26日 第14回上総国さすぎ市

最新イベント情報は
一宮町観光協会のホームページを
ご覧ください

<http://www.ichinomiya.org/>



<http://ichinomiya-iju.jp/>

千葉県長生郡一宮町役場 まちづくり推進課(直通)
一宮町移住定住相談窓口

☎ **0475-42-2113**

〒299-4396 千葉県長生郡一宮町一宮2457